納池公園

1873年に公開された納池公園は、東京の上野公園と京都の嵐山公園とともに、日本で初めて公園認定された3つの公園の中の1つです。

公園として開かれる前から、この土地には水神を祀る神社がありました。神社は現在も残っており、入り口には2本の杉の木の間挟まれた鳥居があります。

納池公園の池には、この地域の火山の泉の澄んだ水が流れています。この地方には火山性の地下水が豊富にあり、納池のような低地の地域では、純粋な湧水が湧き出て池やその他の淡水環境を形成しています。また、納池の池には左右から2つの泉が流れており、固有の淡水生息地を形成しています。さらに、納池は年間を通じて水温が12～13℃程度で保たれており、久住高原の標高が比較的高いことから、水温が周囲の低地部よりも6～7℃低くなっています。